

ホームページへの掲載			
済	12月	15日	掲載

## 岐阜県立山県高等学校

学校長 伊藤 崇  
学校住所 岐阜県山県市中洞44-1 電話 0581-52-1551

- 1 会議名 岐阜県立山県高等学校運営協議会（第2回）
- 2 開催日時 令和2年10月27日（火）
- 3 開催場所 校長室
- 4 参加者 委 員 九野 隆浩 山県市スポーツ推進員  
藤木 節子 元山県高等学校長  
前田恵津子 主任児童委員  
廣田 直子 P T A会長

学校側 伊藤 崇 校長  
伏見 圭太 教頭  
磯部 典之 事務長  
山田 智徳 教務主任  
中谷 長史 生徒指導主事  
山本 通広 進路指導主事

- 5 内 容 (1) 学校長挨拶  
(2) 授業参観（5限）  
(3) 学校評価アンケートについて  
(4) 各分掌等による中間報告  
・教務部  
・生徒指導部  
・進路指導部  
・企業実習  
・ものづくり講座  
(5) 意見交換

## 6 会議のまとめ

### (1) 学校長挨拶

今年度は4月から学校休業を余儀なくされ、通常授業が再開したのは6月15日であった。その期間は、手探りの状態でオンライン授業を行った。生徒が視聴した端末は、ほとんどがスマートフォンで大変であったが、今後は生徒全員に学習用タブレット端末が配布される予定である。

単位制普通科として入学した2年生は、類型ごとのクラス編成で、特色ある取組をしている。中でも工業類型は、7月から毎週水曜日に企業実習を行っており、地域企業19社で22名がお世話になっている。本校のような学習スタイルは珍しいため、県外の高校が視察に来ている。設備面では、昨年度エアコンがHR教室に整備されたが、全ての教室に設置されたわけではないため、特別教室など未設置の教室には今年度設置される予定である。

### (2) 授業参観

第5限の授業を参観(全クラス)

### (3) 学校評価アンケートについて

- ・保護者・学校運営協議会委員対象、生徒対象ともに全体的に評価が上がっている。中でも生徒指導、教育相談、進路指導、学習指導の生徒対応に関わる項目については、高評価を得ている。
- ・抽出調査のため、全生徒・保護者を対象とした結果ではない。

### (4) 各分掌等による中間報告

#### ○ 教務部

- ・今年度から各教科の評価方法を変更した。定期考査の割合を70%から50%に、平常点・提出物等の割合を30%から50%とし、日頃の授業態度や学習意欲を評価するようにした。  
新学習指導要領で育成を目指す「学びに向かう力、人間性を涵養すること」にもつながるため、先行的に実施することとした。
- ・学校評価アンケートでは、「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」、「先生は補習等を通じて一人一人の能力に応じた指導を行っている」などの項目で高い評価を得た。また、習熟度別授業や少人数授業においても高評価が得られ、日頃のきめ細かい指導の成果であると感じている。

#### ○ 生徒指導部

- ・生徒との関係づくりと対話を重視して進めている。今年度は、生徒状況がより把握できる心理検査に変更し、特別支援教育支援員も増員した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策で生徒指導室の机のレイアウト等は変わったが、以前と変わらず部屋を訪れ、時には溜まったストレスを吐き出して授業に向かう生徒の姿がある。
- ・今年度からスマホボックスを設置し、マナー指導を実施した結果、授業中に誰一人スマホを触らなくなった。

○ 進路指導部

- ・新型コロナウイルス感染症の影響でインターンシップが中止となり、生徒にとって就職のイメージを掴みにくい状況で進路指導を行った。求人数は昨年度を下回ったが、の努力と教職員の支援により、現在就職先が決定しつつある。今年度は1か月遅れの日程のため、生徒はモチベーションを維持するのが大変だったと思うが、十分準備して試験に臨むことができた。
- ・就職先は圧倒的に製造業が多い。事務職は厳しく、合格が難しい。
- ・進学希望は39名で、試験日程の変更により、こちらも準備時間が増えた。本校生徒の多くは、推薦入試での合格を目指している。

○ 企業実習

- ・インターンシップを基に、H30は14名、H31(R1)は5名が実施した。この時点では実習先の企業(職種)はバラバラだったが、今年度からは工業類型選択者を対象に、工業(製造業)に特化したデュアルシステムを実施している。実習先は生徒の希望により、第3希望までの中で、自宅に近いところを選定している。

○ ものづくり講座

- ・来年度、工業類型3年生の「ものづくり講座」を、国際たくみアカデミー(10回)と東海職業能力開発大学校(8回)で実施する予定である。国際たくみアカデミーには、機械、建築の分野、東海職業能力開発大学校には電気・電子・情報の分野の実習をお願いする。実習内容の詳細については、年内に決定する予定である。

(5) 意見交換

委員1

- ・授業参観は2回目だが、生徒は落ち着いて楽しく授業を受けていると感じた。
- ・工業類型の企業実習はとてもよい取組なので、是非続けてほしい。
- ・商業類型では企画・販売といった経験を通して、自分で考える授業形態があるとよい。
- ・高校3年間で何か頑張れるものを見つけ、達成感を持って卒業し、社会に出てほしい。

委員2

- ・生徒は落ち着いており、表情から学校が楽しいと分かる。学校再開後、遅刻や欠席など、生徒の様子はどうだったのか。
- ・黒板がホワイトボードに張り替えられ、学習環境が以前より明るく、きれいになった。
- ・身だしなみについての掲示物はよい取組だと思う。
- ・ICT環境が充実したことで、授業進度が早くなるが、生徒の理解度を検証すると共に、教員には信念を持った指導を続けてほしい。
- ・部活動を辞めた生徒に声を掛け、積み重ねが大切であることを気付かせてあげてほしい。
- ・本校生徒の良さは、素直さである。毎朝の健康チェックは大事なコミュニケーションの場なので、大変だが頑張ってもらいたい。

委員3

- ・本校を存続させるための「山高未来プロジェクト」では、いろいろな困難があったと推測されるが、これを乗り越えて今があり、県外から視察が来るまでになったのだと思う。
- ・よい指導をしている教員の情報を交流(共有)することが大切ではないか。
- ・部活動を中学校でも高校でも辞めてしまう生徒が、社会に出た時のことを心配す

- る。自分の好きなことを3年間続けられる力をどうつけるのかが課題だと思う。
- ・コロナ禍でも関係づくりができるような工夫が必要である。

#### 委員4

- ・授業参観では、「僕たちを見て！」というアピールのようなものを生徒から感じた。
- ・朝の健康チェックで教員と生徒がとフレンドリーに話している雰囲気はとてもよいと思った。教員と話せる嬉しさが伝わってきた。
- ・私の子どもは、デュアルシステムで毎週水曜日に通勤している。帰ってくると疲れてすぐに寝てしまう。こういうことが習慣として体験できるのは、親としてとても嬉しい。来年の「ものづくり講座」に期待している。

#### 6 会議のまとめ

本日の授業参観では生徒の表情が良く、落ち着いて授業を受けている様子を見ていただくことができた。生徒の様子は全体的に良くなっていて、部活動を頑張っている生徒も多い。ただ、本校ではどうしても帰りのバスの運行時間の問題がある。

I C Tの活用は、見栄えが良い。しかし、本当に生徒の実情に対応できているのか、その検証はする必要があると思う。

朝の健康チェックは、遅刻防止や会話のために大切な場となっている。

次回は、2月17日の午後に企業実習の発表会を予定している。